

令和7年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立南小学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「縦割り班活動で仲良くなろう ～みんなの笑顔があふれる、安心・安全な学校・学級を～」		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像

児童の実態	取組を通して育てたい児童像
縦割り班（掃除・遠足・児童朝会等）の活動を通して、学年間、異学年間の児童どうしのつながりを深め、相手を思いやる心や感謝する心を育てる。	南小学校の一員として、よりよい学級・学年・学校をつくっていくために、学年や学級が異なる児童と協力し、自他のよさに気付いたり、自分のよさを生かして活動に取り組んだりする。また、異学年の児童と共に楽しく触れ合い、交流を図ることで、よりよい人間関係を形成することができる。



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい

- ・ 互いの意見を尊重し合いながら協力して計画を立て、実践する事を通して、上級生を中心とした異学年間の人間関係を深める。
- ・ 自分たちの力でよりよい学校をつくっていこうとする自治的能力や自主的、実践的な態度を高める。

取組の流れ・創意工夫・児童の変容等

<事前の指導・導入>

- ・ 学校全体を振り返り、課題を明確にするために、全校児童を対象に、今の自分たちを振り返るアンケートを実施した。「自分にはよいところがない。」「自分のよさを友達に認められていない。」と感じている児童が22.9%いることがわかった。
- ・ 児童会を中心に学校の課題を基にどのような取組ができるかを話し合い、企画、立案し、全校で実施した。
- ・ 児童にめあてをもたせるために、児童会やペア学年の上級生がこれまでの経験を活かし、相手意識を持って、「どの学年も一緒に楽しむことができること」を目標とした。
- ・ 全校児童が振り返りをして、児童会を中心に企画、立案することで、より主体的に、自分たちの問題として考えさせることができた。

<取組内容①> 「いろいろな学年の友達をつくろう～一緒に遠足を楽しもう～（ペア学年交流）」
(雨天のため、時間を区切って体育館でゲームを行った。)

- ・ 学年や学級が異なる児童と共に楽しく触れ合い、交流を図ることを意図して、遠足でペア学年の上級生が下学年と一緒に楽しめる遊びを計画・運営をしたことで、上級生が下学年に対して優しい態度や声掛けをする姿がたくさん見られた。【自己存在感の感受】



<取組内容②> 「いろいろな学年の友達をつくろう～一緒にあそぼう～（縦割り班交流）」

- ・ 異学年集団による交流を意図して、児童朝会で全学年が一緒に楽しめる遊びを計画・運営をしたことで、児童会のリーダーとして自分の得意なことを活かして、友達と協力して取り組むことができた。【共感的な人間関係の育成】



<事後の指導>

- ・ 異学年集団交流についての振り返りの場面では、「自分が計画して進めた遊びをみんなが喜んでくれて嬉しかった。」との反応があり、上級生が相手意識を持ち、これまでの経験を活かした活動に主体的に取り組むという成長が見られた。【自己決定の場の提供】

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 異学年集団の交流では、上級生が下学年と仲良くなるための活動を計画、実行した。下学年の児童と一緒に楽しめる活動は何か、どうやったらわかりやすい説明や声掛けになるか等、上級生が相手意識を持ち、活動を行う中で、児童どうしのつながりを深めることができたとともに、どのような声かけや行動が相手を温かい気持ちにさせるのかが分かり、その輪が広がった。相手を思うことで自分も嬉しく温かい気持ちになることを味わい、年間を通して全校児童に伝えている「相手を大切にすることは自分を大切にすること」への意識が高まった。
- 事後アンケートの結果において、「自分にはよいところがある・よさを友達に認められている」では、2学期より2.1ポイント上がり、77.2%であった。異学年集団の活動の中で新しい人間関係を築くことを通して、自分自身を見つめ直すきっかけになっている。引き続きつながりを大切に取組や丁寧なアセスメントを継続して行い、温かい学校・温かい学年・学級集団に高めていく。